

八木田和浩議員

質問①

森林資源の好適利用について

問 現在の所有形態別森林の状況と直近の素材生産量の推移と町有林における伐採計画についてお伺いします。

答 町内の森林状況については、別表の通りとなっている。５年間で年次計画を立てており、現在の計画は平成29年11月１日から令和４年10月31日までの期間で主材が２９．５ヘクタールで８，８００立方メートル、間伐３５１．９３ヘクタールで１万７，１０８立方メートルの計画で実行しており、今後の５年間については10月中に作成する予定となっている。

町内形態別森林面積（令和３年度末時点）	
道有林	２万547ha
町有林等（針葉樹）	785ha
町有林等（広葉樹）	2，106ha

問 公共施設による木質バイオマスの利活用とエネルギーの地産地消として、小規模木質バイオマス発電や木質バイオマス熱供給システムを導入し、地域振興の可能性を広めるべきと思いますが、様似町における可能性・必要性についてお伺いします。

答 木質バイオマスのエネルギー利用については現状では、電気と熱の二つの利用が想定されています。電気利用のみの場合のエネルギー効率は15から30％で大規模化が必要とされている。熱利用のみの場合エネルギー効率は80から90％で、中小規模でも利用可能とされており、なお電気利用と熱利用を併用した場合のエネルギー効率は70から80％であり、熱利用のみの場合より設備費が割高とされています。

町内素材生産量（令和２年度まで）	
平成28年度	２万822㎥
平成29年度	２万326㎥
平成30年度	２万71㎥
令和元年度	１万1，770㎥
令和２年度	１万2，069㎥

公共施設による木質バイオマスの利活用については、熱利用での可能性が高いものと考えられ、エネルギーの地産地消として林業分野においても必要性が高く、地域振興につながるものと考えられる。これから来るそれぞれの施設改修、改築の場面では当然考えていかなければならないと思う。

質問②

今後の老人福祉行政と介護従事者に対する処遇のあり方について

問 現在の福祉施設の利用状況と今後の見通しについて。

答 様似ソビラ荘は平成29年に現在の場所に移転した時から入所者で60名、短期入所で16名の定員で運営されている。入所者はほぼ満床状態で、ショートステイ短期入所については、年度により実績が異なり少ない時で４名位、多い時で15名位です。

昨年の後半からソビラ荘で介護職員が不足となり、令和４年２月からショートステイ短期入所の二つのユニット16床分が一時閉鎖となり、現在も続いている。

全国全道的に介護人材が不足しておりなかなか職員を補充する見通しが立っていない。

問 介護従事者の労働環境はどうなっているか。

答 勤務時間は４種類で①午前７時から午後４時まで②午前９時15分から午後６時15分まで③午後２時45分から午後11時45分まで④午後11時30分から翌日午前９時30分までとなっている。

パート勤務は４時間勤務で午前７時から・午前11時から・午後３時からの３種類で、昨年の途中16床を一時閉鎖する前は、職員数の不足で勤務シフトを組むのがやっとの状態で、有給休暇がほとんど取れていない時期がありました。16床閉鎖後は勤務改善が行われている。

問 福祉行政として現状をどうとらえているか。

答 町内の施設利用希望者の方に、ご不便をおかけしていることに大変申し訳なく思っている。厚労省で２０４０年に相当な介護不足が起きる予想しており、様似町は先に現実化していると感じる。

問 待遇の改善なしに労務的に、今後通常運営に支障をきたすこととなると思われるがいかがか。

答 職員の定着とはならず、結果として事業所のサービス運営に支障をきたすことになると思っている。



酒井健二議員

質問①

JR日高線跡地等の活用について

問 町内のＪＲ日高線関係施設（駅舎、鉄道用地、線路等）を活用した事業のアイデア募集の状況について、どのような活用方法があったのか（町広報今年５月号に募集）質問します。

様似駅前、駅周辺の町有地、鉄道用地等を含めた活用方法について、町の考えを質問します。

答 残念ながら１件の応募でした。内容はキハ40型気動車（国鉄キハ40系気動車とは、昭和52年から昭和57年にかけて、日本国有鉄道が製造したディーゼル動車である。）を購入して線路上に設置して飲食スペースとし、駅内弁当販売、飲食スタンドを設置するなど、乗車体験をできるようにとの提案がありました。



▲ 様似駅開業当時からの石積みであると思われるプラットフォーム

５月27日には様似町観光協会、様似町商工会、さまに大通振興会、会所の会、様似駅盛り上げ隊、まんまの会が参加してＪＲ日高線跡地・旧様似駅の活用・駅前整備を考える会を開催してアイデア募集、意見交換を行いました。

内容は線路の活用ではトロッコ列車やＤＭＶ（ＤＭＶ（デュアル・モード・ビークル）とは、列車が走るための道軌道と自動車が走るための道路の双方を走行できる鉄道車両として改造されたバス車両のことである。）幌馬車を走らせる遊歩道やサイクリングロード、線路に列車本体を置き、飲食スペースやゲストハウスなどの宿泊スペースなどでの活用、駅舎にはカフェやお年寄りの交流の場など、人が集まる機能を持たせることが必要などの意見のほかに、道の駅、駐車場の整備、花壇の整備、チャレンジショップなどの意見がありました。旧様似駅を含む駅前地区につきましては、様々な意見を頂きながら慎重に検討している状況です。



▲ 日高線の終点

鉄路を含め鉄道用地等の財産については、どの範囲まで譲渡を受けるのか、また、活用方法等についても決定していない状況ですが、いかにこの遺産というものを観光に活かしていけるのか考えているところです。